

NAREC Newsletter

ナレック ニュース・レター

No.48
2015 年夏号

環境再生事例 関東

つるがしま・ ふるさと景観の再生

地縁団体・NPO・行政の協働による耕作地内での環境復元

カテゴリ

自然環境



対象テーマ



1

ふるさとへの想い。 川の再生に向けて



1



2

今回の自然再生の舞台、飯盛川が流れる鶴ヶ島市は、埼玉県ほぼ中央にある面積 17,73km² の小さな街です。戦後からの半世紀で人口が約 10 倍に膨れ上がり、農村からベッドタウンへと変貌しました。

高倉地区は、650 年以上の歴史を持つ集落で、乱開発を嫌い、屋敷林と農地を守ってきた地域です。幾つもある年行事の中でも一番重要な“オクンチ（秋の鎮守の例大祭）”では、ささら獅子が奉納され、江戸時代からの格式を護るための日枝神社氏子会と高倉獅子舞保存会を核に、地域のコミュニティが守られてきました。

近代になり農家の減少と高齢化の問題がでてきました。そこで地域の暮らしと文化を守るため、平成 15 年に新たな“結”の組織として、「高倉ふるさとづくりの会」が結成され、鶴ヶ島市や地元農協の協力を得て“ふるさと景観”の再生が始まりました。

そんな中で「昔の風景をもう一度見たい」「禊（みそぎ）の場の神聖さを取り戻したい」「孫に川で遊ばせてやりたい」という思いが、地域住民の中で徐々に高まり、小河川“飯盛川”の自然再生事業へとつながっていきました。

1. 高倉の獅子舞。毎年 11 月 2、3 日に奉納される
2. 昭和 40 年代の飯盛川の“もく刈り”風景

復元前のようす

農薬使用と外来種の繁茂



3

昭和 50 年、地区中心部を流れる飯盛川に沿って広がる 10ha の低湿地と泥田の農地改良が行われました。湿地や田に暗渠を入れ排水を促進し、近隣から持ち込んだ土を客土して、“畑”へと造り変えていきました。

三面護岸の水路となった飯盛川からは子どもの姿が消え、ゴミが投げ込まれることも増えて行きました。単純化された河床では、アメリカザリガニやタイリクバラタナゴといった外来種のみが増え、増水時にそれらは下流へと押し流されていきました。それでも、川にはカワセミやカルガモ、コサギなどの野鳥が現れ、空にはオオタカやハイタカ、ツミなどの猛禽が飛翔する姿を頻繁に見ることができました。シオカラトンボやハグロトンボ、

ヤンマの仲間の姿も見られ、域の自然度の高さは感じられました。

しかし、除草剤使用の影響を受け、農道沿いの野草は茶色に枯れ上がりました。生産性を向上するために殺虫剤や殺菌剤がふんだんに使われている光景は、自然と共生してきたかつての農村の姿から大きく変貌してしまいました。輸入飼料を食べた牛糞を畑に散布した影響で、イチビやオオブタクサ、アレチウリなどの外来植物の繁茂が見られるなど、農村自然の健全性は脅かされていました。



4



5

3. 飯盛川を東から西方面を見たところ（手前が上流）
4. 左奥の柳の木から手前が工事区間（手前が下流）
5. 単純な直線水路では、生物が暮らすことが難しい

復元後のようす

住民の“想い”の復元



6

工事の終了後は極めて早いスピードで植生が回復しました。古くからの農村であった高倉地区の土壌中には豊潤なシードバンク（休眠種子群）が存在していたことが主な理由と思われます。

まず、景観植物として栽培されていた菜の花が芽生え、次にスイバ、ギシギシ、ホトケノザなどが発芽。次に、外来種のアメリカフウロやアレチウリが勢いよく繁茂してきました。

復元後に目立って増えた生き物は、ハグロトンボとツバメでした。特にツバメは周辺地域からも飛来し、巣材として泥をついばんで行く姿が多く見られました。また、これまで観察されなかったコチドリも飛来し、カワセミ

の滞留時間も増えたため、アマチュアカメラマンの来訪も増加しました。

三面護岸の水路の流速が早すぎるために、ほとんど姿が見られなかったヌマエビやメダカの姿も増え、タモロコやギンブナの姿も見られるようになりました。

散策する市民や川遊びをする子どもたちも増えてきています。そんな様子を見ていた高倉地区の住民の皆さんからは自然と「昔のようにホタルの飛ぶ姿が見たい!」「川のまわりで農薬はまずい」と声が上がってきました。それが、数十年使いなれてきた農薬を、農家自身が使うことを止めた瞬間でした。



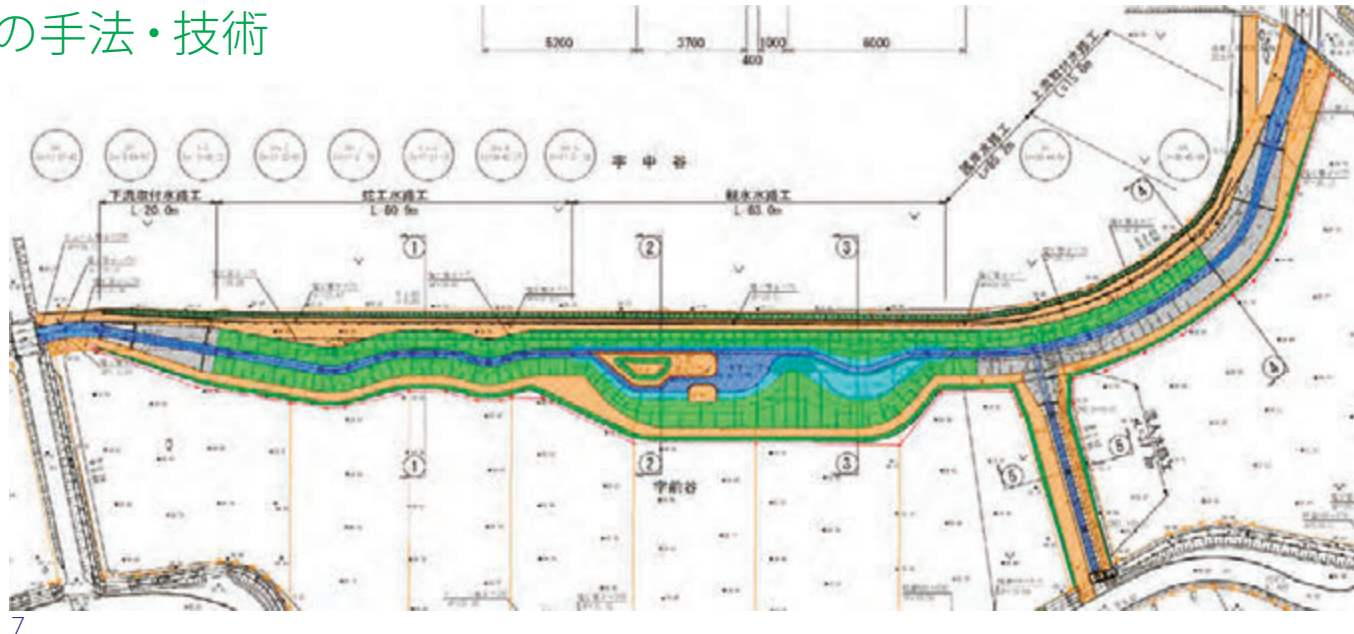
7



8

6. 工事区間中央、ビオトープのある親水水路区間
7. 護岸水路区間。手前右から水路が流入
8. 住民の手により、こいのぼりと菜の花のコラボレーションも実現した

復元の手法・技術



7

どんな川にしていくのか？ 高倉ふるさとづくりの会と行政、自然環境復元協会、グラウンドワーク三島との間で、何度もワークショップを開き、「本来の自然環境、景観を再生。現況を活かして、奇をてらわない」「治水機能を保持するため、洪水時に大断面を確保する」「人が集まる場所とするため、水辺へのアプローチを容易にする」といったコンセプトを決めていきました。また、三面護岸のコンクリート部材は、法面の洗掘を防ぐために地下に埋設し、産業廃棄物が一切出ない工法としました。

工事区間 230m を 4 つの区間 (蛇行水路区間、親水水路区間、護岸水路区間、流入水路区間) に分けて設計をし、2013 年 11 月に着工しました。飯盛川周辺は地下水位が 1-2m の軟弱地盤ですので、100 年に一度と

も言われる大雪災害に出くわしたときは、工事現場全体が水没してしまうなど 難工事となりました。しかし、施工管理士 / 環境再生医の水村俊之氏の尽力で 2014 年 4 月、無事に工事が終了しました。

自然植生の回復までの間、景観と土壌流出防止の観点から野芝が張られました。地盤が安定するのを待ち、ハンノキやノボケ・カワヤナギなど在来の樹木を市民や自然環境復元協会のレンジャーズプロジェクト* が協働で植栽をし、徐々に“農村の小川”の景観が戻りつつあります。

* レンジャーズプロジェクト：NAREC のボランティアシステム。関東で活動する環境保全団体のもとで作業の手伝いを行う。ボランティア参加者（隊員）は若手が多いことが特徴。



8



9



10

7. 最小限の用地買収で省コスト施工 (周りは全て農地)
8. 「釣りがしたい」「川遊びがしたい」市民からの様々な要望と、安全性・施工効率等を吟味していった
9. 大雪にゲリラ豪雨。何度も破壊される施工現場を「技術と知恵と忍耐」で乗り越えた
10. 施工方法を打ち合わせる、速水氏と水村氏

復元までのみちのり



11

今回の工事の発端となったのは、鶴ヶ島市と高倉住民が協議して策定した「ふるさとの郷構想」でした。これは、農村景観が色濃く残る 100ha を自然復元しながら、地域外からの人を呼び込み、地域の活性化を図ろうというものでした。

地域から募った委員を中心にワークショップを繰り返し、地域資源を「屋敷林」「農地」「飯盛川」「池尻池」「雑木林」にブロック分けし、復元と整備を進める計画を立てましたが、なかなか事業は捗らず、農地の中で菜の花やコスモスといった景観作物を栽培する状況が長く続きました。

状況を打開するために市が着目したのは、静岡県三島市で住民主体のまちづくりを推進してきた“NPO 法

人グラウンドワーク三島”と協働することでした。これをきっかけに市民・行政参加の交流が始まりました。三島の水辺づくりの代表例である源兵衛川の自然復元事業を当初から手がけたのが、三島の渡辺豊博氏と自然環境復元協会 (NAREC) の加藤正之氏、速水洋志氏で、本事業に対して多くの知見を得ることができました。また、本事業の計画策定には環境再生医である立川周二氏、吉田勇人氏にも参加いただき、地域の合意形成から実施設計までを、NPO が鶴ヶ島市から委託を受けて実施するという極めてユニークな取組みとなりました。



12



13

11. 鶴ヶ島市農業交流センター主催で、市民参加の生物調査を行いデータの蓄積を行った
12. 吉田氏と立川氏のファシリテートで検討会議
13. 市民、NPO、行政が現地で視察検討

今後の展開と課題

14. 作業の合間にレクチャーを受ける

レンジャーズ隊員

15. 蘇った飯盛川



14

工事完了後、すぐに河床の「洗掘と堆積」の変化が起きました。三面護岸を外された川がもたらす“自然の変化”を許容しつつ、碎石を投入したり、玉石で堰を作ったりといった最小限の整備と工夫を加えていくことが、これまでのワークショップで合意されています。

今後の展開としては「下流にある落差に魚道を設置」「本来の源流であった雑木林の中の湧水とため池の浚渫」「外来野草の抑制と、在来野草のミソハギ・コウホネ・ノカンゾウ等の増殖・復元」「周辺企業との協働」等が検討されています。

環境管理を進めていくためには、多くの人手が必要で

す。自然復元後の飯盛川の維持管理を、地域住民と市民により協働で行うことを視野に入れ、工事の1年以上前からレンジャーズプロジェクトに参加するボランティアを迎え入れてきた経緯があります。当初は半信半疑だった地域住民も、ボランティアが参加する回数が増えるにつれ、期待を寄せるようになってきています。

飯盛川の自然再生をきっかけに、地域は変わり始めています。この変化を維持するためには、「人を呼び込み、化学反応を起こす」アクションを続けていかなければなりません。



15



原田信（はらだまこと）
自然環境復元協会・環境再生医（上級）/
原田農園

1967年生まれ

日本大学 農獣医学部卒（現：生物資源科学部）、公益財団法人 日本野鳥の会、小学館プロダクションで企画屋を経験。高倉集落の自然復元・鶴ヶ島市の農業振興に携わる。現在は福島県内での農業振興事業に従事。

趣味：野良仕事 / シーカヤック / 海釣り / 素潜り / ビーチコーミング / 果実酒作り / 野生動物観察

●活動分野

農村地域の自然復元 / 都市と農村の人的交流

●主な研究発表・講演等

川の再生交流会（2015）

●連絡先

〒174-0071 東京都板橋区常盤台 1-51-4

TEL: 090-8509-8883

E-mail: macoglass@gmail.com